

## サービスの融合を図り「社会システム産業」の本格展開へ



セコムが最初に始めたビジネスは、事業所向けのセキュリティサービスの提供で、その市場規模は、現在全国で600万カ所を超えています。次に開始したホームセキュリティサービスは、全国約4,700万世帯を対象としています。さらに、「ココセコム」や各種保険、医療などのサービス・商品のラインアップが充実するに及んで、セコムの市場はついに1億人以上の個人にまで広がりました。このように、セコムが新しいマーケットを次々に開拓できたのは、社会のニーズの変化を見極め、それに合致したサービス・商品を創造し続けてきたからです。

私たちがめざす「社会システム産業」の本格展開はこれからです。セコムは創立40周年を迎えた本年を「第二の創業期」のスタートと位置づけ、各事業・各サービスのシナジーを発揮していきます。

各事業・各サービスの融合はすでに始まっています。例えば、セキュリティ・情報系・地理情報サービスの各事業のシナジーとして生まれた位置情報提供サービス「ココセコム」や、メディカル事業と保険事業のシナジーである最善のガン治療のための自由診療保険「メディコム」などの登場により、「社会システム産業」の本格展開へ踏み出しています。ここでは、こうした近年のセコムグループの取り組みをご紹介します。



## セキュリティノウハウと 最先端技術の融合により さまざまなシステムを開発

セコムは創業以来、革新的なセキュリティシステムを次々と開発し、お客様に「安全・安心」を提供することで厚いご信頼をいただいています。セコムでは、ご契約先のお客様に、常に高品質のセキュリティサービスを提供することをめざし、サービスにかかわる全分野の品質を自社組織で管理する「トータルパッケージ・システム」という独自の方式を採用してきました。その理由は、一貫体制のセキュリティ提供を実現するために欠かせない、ご契約先に設置するセンサー等の機器の研究開発・製造からセキュリティプランニング、機器の設置工事、24時間監視、緊急対応、メンテナンスといったさまざまな要素が確実に運用・管理されてはじめて、高品質なセキュリティが実現できると考えているからです。

とりわけ、「開発センター」と「セコムIS 研究所」は、変化を続ける社会のニーズや新しい概念への柔軟かつ迅速な対応に、重要な役割を担ってきました。最近では、オンライン・セキュリティシステムに最先端の画像認識技術や伝送技術を融合した「セコムAX」や「セコムIX」を開発し、犯罪を抑止する高品質なセキュリティの提供を可能にしました。また、大規模施設のセキュリティ（ローカルシステム）では、ネットワーク技術によりセキュリティシステムと多様な設備管理を融合した包括的なビル管理システム「トータックスZETA」を開発・発売しました。さらに、



最新技術の実用化やさまざまなシステムの融合だけでなく、セコムグループが提供している事業の融合により、新しいサービスが生み出されています。そのひとつが、セキュリティと情報系、地理情報サービスの各事業を融合した、移動する人物・車両向けのセキュリティサービス「ココセコム」です。

### ■画像認識技術・伝送技術との融合 による「セコムAX」「セコムIX」

「セコムAX」は、画期的な画像センサーによって、セキュリティの概念を革新した新次元の安全管理システムです。このシステムの特徴は、ご契約先で異常が発生したとき、セコムのコントロールセンターの管制員が画像センサーから送信されてくる画像を見て、ご契約先の状況を確認できることです。また、画像センサーに内蔵されたマイクを通してご契約先の音声も聞くことができるため、現場の状況を的確に把握できます。これにより、セコムの緊急対応員への指示や110番通報がスピーディに行えます。さらに、ご契約先に設置したスピーカーで侵入者に警告をして、犯行を抑止することもできます。

「セコムIX」は、深夜営業店舗での強盗などの犯罪を抑止する機能を備えた遠隔画像監視システムです。CCTV（監視カメラ）システムとISDN回線による動画伝送技術を利用した、非常通報を主な目的とする双方向型オンライン・セキュリティシステムで、24時間営業のコンビニエンスストア、レストラン、ガソリンスタンドなどに、営業時間帯のセキュリティ対策として利用されています。「セコムIX」には、犯罪発生時や身の危険を感じたときに、「非常ボタン」を押すと店舗の画像と音声はコントロールセンターに送信される「非常通報画像監視サービス」と、挙動不審者の来店や酔客の迷惑行為などで不安を感じたときに、「要請ボタン」を押すか「セコムホン」の受話器を持ち上げるだけでセコムによる遠隔監視を要請できる「画像監視要請サービス」があります。どちらの場合も、必要に応じてコントロールセンターの管制員が店内に取りつけられたスピーカーで音声によるアナウンスを行い、犯罪の抑止を図ります。コンビニエンスストアでは、ATMが設置されるようになったことで営業時間帯のセキュリティニーズが高まり、「セコムIX」を導入する店舗がますます増えています。同様に、日中の不審者の侵入・強盗などに備え、幼稚園・保育園・小学校などにも導入されています。

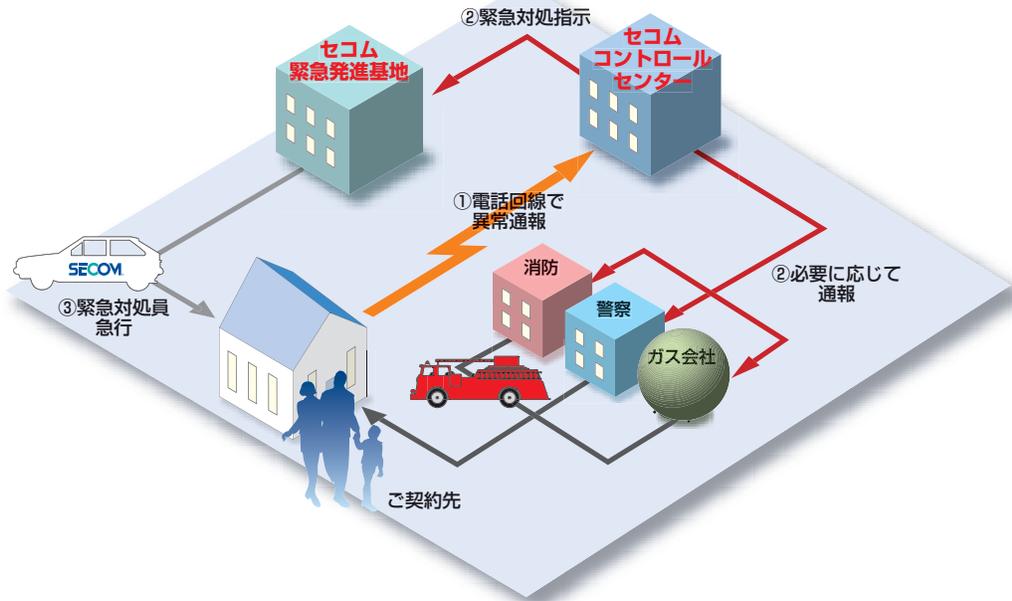


### ■多様な設備管理との融合による「トータックスZETA」

このほか、大規模施設のセキュリティノウハウと最新のネットワーク技術を融合した新しいトータルセキュリティシステムとして、2002年1月に、「ト

タックスZETA」を発売しました。ビルの構成要素である電気、空調、照明、衛生、防災、防犯、出入管理、映像監視、通信設備、エレベーターなど、多くの設備を管理するシステムを総称して、ビル管理システムといいます。こ

### セントラライズドシステム



のビル管理システムに求められる機能は年々多様化し、従来のように1社の管理システムだけでは施主のニーズにお応えすることが難しくなってきました。また、設備ごとに専門メーカーの品揃えの中から最適なものを採用し、それらを統合管理するシステムが求められています。このような背景の中でセコムが発売したのが「トータックスZETA」です。「トータックスZETA」は、業界標準である「BACnet」と呼ばれる通信手段を用いることで、他社設備との接続を容易にしました。このシステムは、首都圏の大規模施設に導入されるなど、受注も好調です。

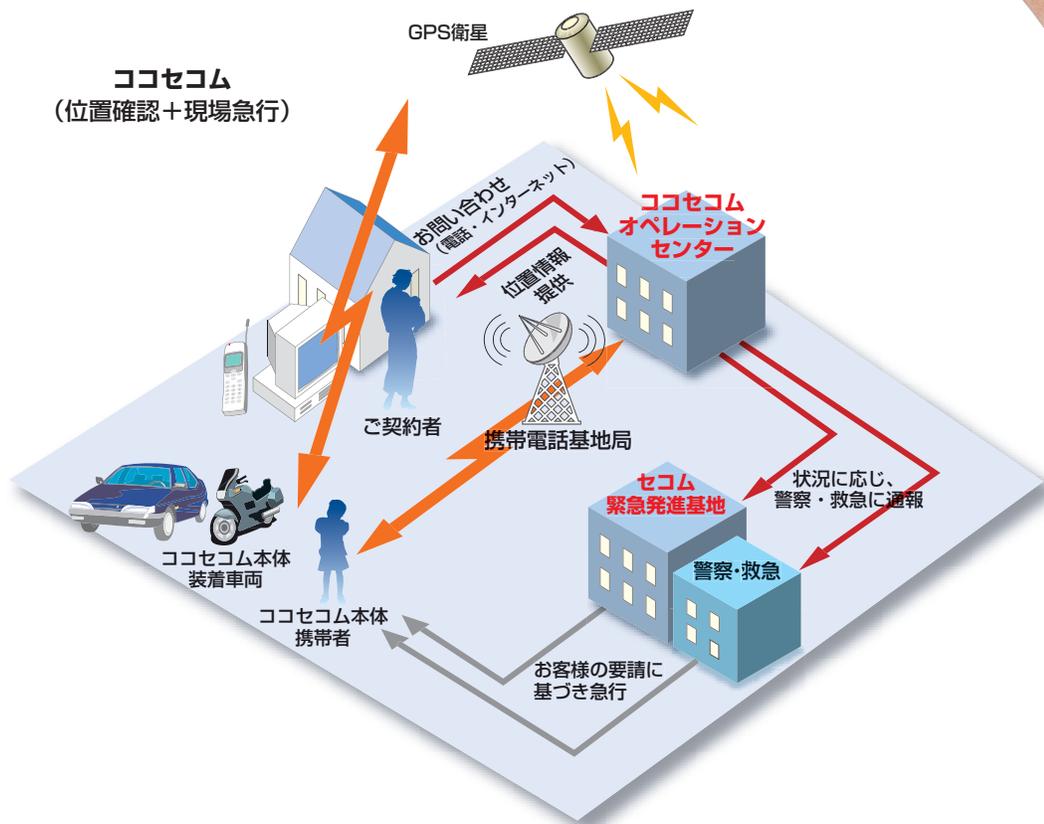


お客様からの要請によりセコムの緊急対応員が急行する、現場急行サービスもご利用いただけます。発売以来、全国各地で「当サービスに加入しておいてよかった」と想像以上の反響をいただき、お客様から「こんなことができな



### ■地理情報サービスとの融合による「ココセコム」

セキュリティと情報系と地理情報サービスの各事業を融合させ、新たな市場を創出したのが「ココセコム」です。人・車・物をセキュリティサービスの対象にした「ココセコム」は、2001年4月のサービス開始以来、着実に社会に浸透しています。「ココセコム」は、誘拐事件・老人の徘徊など家族の行方不明に対する不安感の増大や、二輪車・自動車の盗難増加といった社会問題の解消に向けて開発されました。GPS（全地球測位システム）衛星と携帯電話基地局からの情報による位置検索技術を利用し、これまでに培ったセコムのセキュリティのノウハウ、技術、ネットワークを集大成した、移動する人物・車両向けのまったく新しいセキュリティサービスとして、大きな話題を呼びました。「ココセコム」では、お





いか？」という貴重なご意見もたくさん寄せられました。そこで、セコムはお客様の新たな安心ニーズにお応えするため、「ココセコム」のサービスメニューの多様化を図りました。

2001年5月には、自動車向けとして自動車異常監視サービスを付加した「ココセコム」を発売しました。このサービスを利用すると、小型携帯端末を装着した自動車が駐車位置から移動されると、ココセコムオペレーションセンターに異常信号が送信され、センターからお客様に異常情報を提供します。

2001年9月に発売した「ココセコム・カーアラーム2」は、「ココセコム」に盗難抑止サービスを付加したものです。このサービスによって、駐車中の盗難行為を監視し、異常時に警報音を発します。「ココセコム・カーアラーム2」は、急増する高級車の盗難被害の対応策として、お客様の車両盗難に対する不安解消のお役に立っています。

さらに2001年12月には、人物用として「ココセコムEZ」を発売しました。これは、日本を代表する通信会社のひとつであるKDDI(株)の携帯電話と一体化して、従来の「ココセコム」の機能に加えて救急通報サービスも提供する

ものです。具体的には、お客様が外出時に体の不調などを感じた際に携帯電話の簡単な操作で救急信号をセコムに送信することができます。日本初の携帯電話用救急通報サービスとして、「ココセコムEZ」は各方面から注目を集めています。

荷物・貨物用「ココセコム」も、発売されています。2001年11月27日、東京駅の新幹線車内から1億円相当の宝石入りバッグが盗まれましたが、そのバッグの中に「ココセコム」が収納されていたため、通報から約1時間後に犯人が発見されバッグも取り戻すことができました。この事件を契機に、これまでの車両用、人物用に加えて、現金・宝石・貴重品などを持参または運搬する際に使用するバッグや鞆などを対象にした荷物・貨物用「ココセコム」の販売を開始しました。

続いて、2002年4月には法人向けの「ココセコム・Gマネージャー」を発売しました。これは、法人契約先からのご要望に応じて開発したもので、車両の運行管理や社員管理に威力を発揮します。「ココセコム・Gマネージャー」の特徴は、管理したい複数の車や人の位置を一斉に知りたい場合、グループごとの一括検索ができる点にあります。月間の検索回数に応じた契約内容で月額料金を固定化するなど、リーズナブルな料金設定となっています。「ココセコム・Gマネージャー」は、営業員やメンテナンス要員などを抱えている企業、運送会社、タクシー会社などの業務の効率化、顧客サービスの向上、セキュリティの強化に貢献します。

このように、「ココセコム」はお客様の多様なニーズに対応して、より使いやすく便利なサービスを付加して進化を続けており、着実に利用形態の裾野を広げています。

### 「医療・保健・福祉」三位一体の 高度なメディカルサービスを実現

セコムグループでは、2002年3月1日付で、セコム(株)から医療事業部門を分割すると同時に、セコム在宅医療システム(株)、セコムケアサービス(株)、セコム漢方システム(株)の3社を統合して、新たにセコム医療システム(株)をスタートさせました。日本の医療制度を取り巻く環境の激変や市場の変化への迅速な対応、および意思決定のスピードアップを図るためには、より機動的な経営体制の確立が不可欠と判断したからです。セコム医療システム(株)は、医療事業統括会社として、医療事業の企画・統括を行うとともに、「医療・保健・福祉」三位一体の一貫したより質の高いサービスを提供する体制を構築して、業容の拡大を図ろうとしています。セコム医療システム(株)の主な事業には、薬剤提供事業、訪問看護事業、在宅介護事業、健康食品事業、ホスピネット事業、電子カルテ事業、福祉機器事業などがあります。

「薬剤提供サービス」は、在宅医療を受ける患者さんのためにクリーンルーム(無菌調剤室)を持ったセコムファーマシーが調剤と薬剤の宅配を行うサービスです。

「訪問看護サービス」では、主治医の



指示に基づき、高いスキルと豊富な経験を持った看護師が定期的に患者さんのお宅を訪問し、患者さんの状態観察や床ずれの処置、カテーテルの管理、リハビリ指導などを行います。訪問看護師の拠点である医療・介護保険適用の訪問看護ステーションは全国各地に広がっており、多くの患者さんから感謝の声が寄せられています。また、メディカルと情報系事業を融合させたオンライン在宅医療支援システム「メディデータ」もご提供しています。「メディデータ」は、利用者が自宅で血圧、体温、心電、血中酸素飽和度などの検査を行い、そのデータをオンラインでセコムナースセンターに送信すると、看護師が異常をチェックして、データを主治医に報告するサービスです。これにより、自覚症状がない場合でも病気の前兆をつかみ、早期治療につなげることができます。

「在宅介護サービス」は、利用者が在宅で療養をする場合、日常生活ができるようにホームヘルパーが身体の清拭、入浴・運動・食事の介助、家事の補助などを行うサービスです。在宅医療のパイオニアであるセコムは、自宅で療養している患者さんに、24時間の安心をお届けしています。

漢方の知恵を活かして自然の素材からつくられた「セコム健康食品」もご提供しています。

このほか、メディカルと情報系事業を融合させたサービスには、日本初の遠隔画像診断支援サービス「ホスピネット」があります。これは、高度な画像診断用の医療機器、MRI（磁気共鳴



画像装置)、CT（コンピュータ断層撮影装置）による検査画像を、ISDN回線を使ってホスピネットセンターに送信し、専門医が読影して主治医にコンサルティングを行う医療機関向けのサービスです。「ホスピネット」は、主治医の的確な診断、適切な治療をサポートすることで、患者さんに大きなメリットをもたらします。加えて、医療機関にとっても、地域の病院や診療所から検査依頼を受けることで、高度医療機器の有効活用を図ることもできます。

メディカルと情報系事業を融合させたもうひとつのシステムが、2002年3月に発売した「セコム・ユビキタス電子カルテ」です。在宅で療養する患者さんには、主治医、往診医、訪問看護師、薬局などが、診療データを共有し、連絡を密にして患者さんをサポートするチーム医療が必要不可欠です。そのチーム医療を支援するために開発したのが、日本初のネットワークにより提供される在宅医療向け電子カルテ「セコム・ユビキタス電子カルテ」です。セコムでは、このシステムを、医療機関や医師に負担をかけることなくグループ診療を促進する情報基盤と位置づけ、在宅医療の普及に寄与することをめざしています。

セコムは、福祉機器の開発にも注力しており、手の不自由な方が身体の一部を動かすだけで自分で食事ができる、食事支援ロボット「マイスプーン」を製品化しました。「自分で好きなものを食べたい」「家族・友人と一緒に食事をもっと楽しみたい」といった、手の不自由な方々の願いを実現したものです。利用対象者の操作性・安全性に十分配慮し、手の不自由な方の身体の状態に合った操作方法や装置が選べるようになっています。

セコムは、メディカル事業のさまざまなサービス・商品を通じて、人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献したいと考えています。

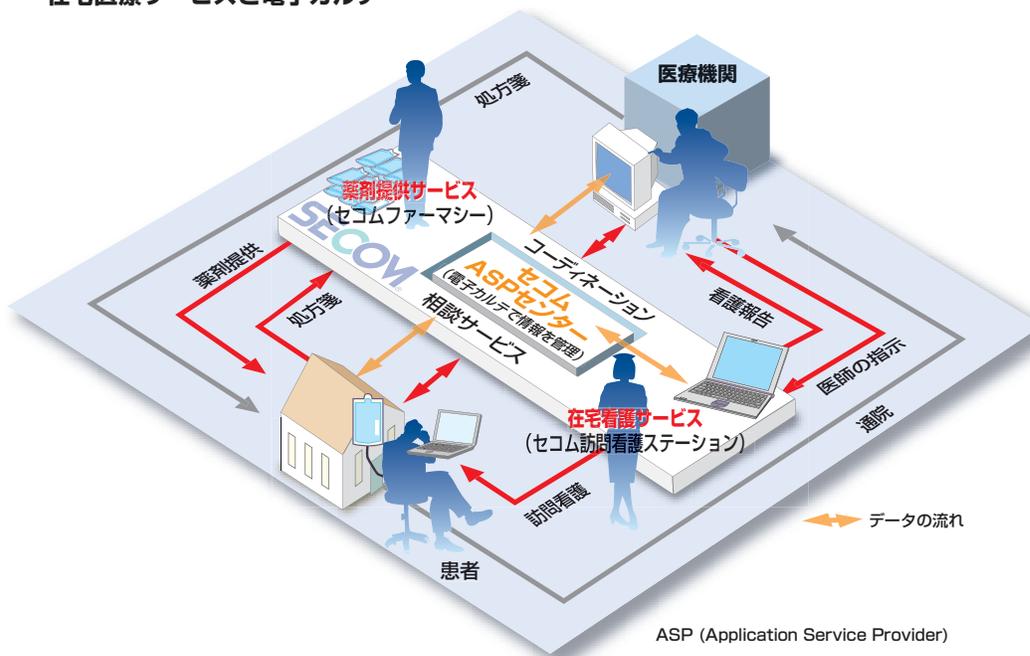


## 保険とセキュリティ、メディカルを組み合わせたセコムならではの商品販売

セコムでは、事前の備えと事後の補償があってはじめて、真に「安全・安心」を提供したことになると考えています。そこで、1998年に資本参加したセコム損害保険(株)(当時、東洋火災海上保険(株))を通じて、損害保険事業分野に参入しました。

それ以来、経営資源を最大限に活用して、セキュリティと保険を組み合わせたセコムならではの商品を次々と発売してきました。1998年には、セコムのセキュリティネットワークを活かして、現場急行サービスを付加したまったく新しい自動車保険「セコム安心マイカー保険」を発売。その後、セコムのようなセキュリティシステム契約によって火災リスクが軽減される分を保険料に反映させ保険料を割り引く事業所向

## 在宅医療サービスと電子カルテ



けの「火災保険セキュリティ割引」、家庭向けの「セコム安心マイホーム保険」を発売しました。

さらに2001年10月には、保険にメディカル事業のノウハウを組み合わせ、国内初のガン治療のための自由診療保険「メディコム」を発売しました。日本では、国民はなんらかの公的医療保険に加入していますが、公的医療保険は適用の範囲が限られています。セコムは、ガンの治療においては、患者さんごとに最も有効と思われる治療方法が異なるため、公的医療保険の枠にとられない「自由診療」が望ましいと考えます。「自由診療」を希望すれば、公的医療保険が定めた適用範囲の制約を受けずに、医師が認める最新の治療を受けられるからです。そこで、被保険者が医療費の負担を心配しないで最新の治療を受けられるよう開発したのが、ガン治療に必要と判断された費用

を補償する自由診療保険「メディコム」です。「メディコム」の特徴は、金銭の補償だけではなく、ガン治療に最適の医療機関の紹介、入院手続きサポート、専門医による医療相談、セカンドオピニオンの提示などのサービスを受けられる点にあります。被保険者の不安を取り除くこのようなサービスは、「安全・安心」を提供するセコムグループならではのサービスといえます。

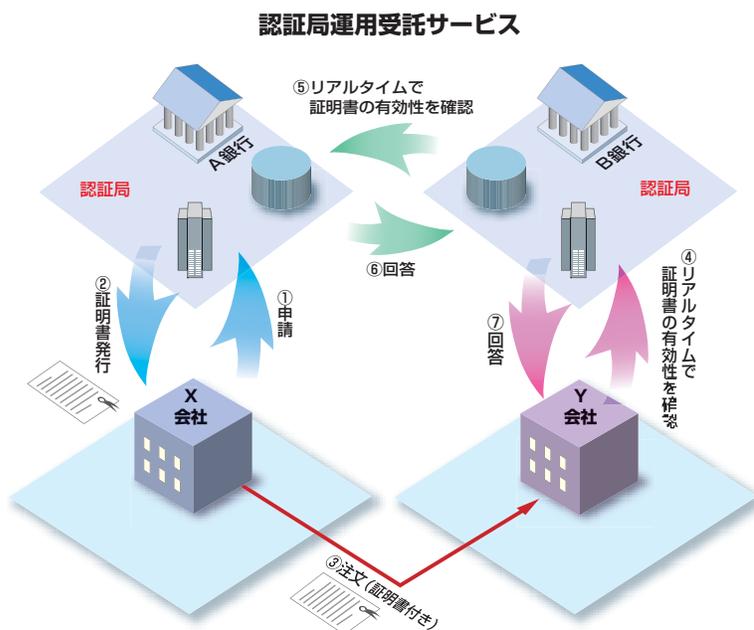
### ネットワーク社会の安全を守る サイバーセキュリティの提供

セコムのセキュリティのノウハウと情報系事業を融合させて、新たなビジネスを展開しているのがサイバーセキュリティ分野です。セコムグループは、1985年の通信自由化と同時にネットワークビジネスに参入し、いち早く情報



セキュリティ対策を手がけてきました。

現在、インターネットは急速に社会に浸透しあらゆる活動の基盤となりつつありますが、このサイバー社会には、現実社会の脅威と同様に、不正な侵入をはじめとするさまざまな危険が存在し、セキュリティ対策が不可欠となっています。また、インターネットのインフラの安全性を確保するため、安全



性を重視したデータセンターの登場が期待されてきました。そこで、ネットワーク社会の「安全・安心」のための対策を最優先してつくられたのが、セコムトラストネット(株)の「セコム セキュアデータセンター」です。このデータセンターは、セコムグループのフィジカルセキュリティと、サイバーセキュリティ、ネットワークの技術・運用ノウハウを結集し、運営されています。「セコム セキュアデータセンター」では、お客様のサーバーを預かり、インターネットへの接続とコンピュータの運用・監視を行っています。物理的な堅牢さはもとより厳格な入退室管理、ネット上の不正侵入やウイルス感染の監視など、24時間体制で堅牢な設備とサイバーセキュリティを一括して提供できるのが特徴です。同センターは、「社会システム産業」を構築するための重要な基盤のひとつとして、順調に稼働しています。

またセコムトラストネット(株)では、サイバーセキュリティの一環として「電子認証サービス」と「有人監視サービス」を提供しています。

「電子認証サービス」は、PKI(公開鍵暗号基盤)の整備を強かに推進し、インターネット利用環境に高い信頼性を提供するサービスです。これには、「電子証明書発行サービス」と「認証局運用受託サービス」があります。「電子証明書発行サービス」の「セコムパスポート for Web」は、インターネットを通じて買い物や電子商取引をする際に、ホームページ運営者が間違いなく存在することを証明するとともに、通信経

路上は信号を暗号化して個人や企業の情報を保護するサービスです。また、「セコムパスポート for Member」は、企業・団体に所属する個人に対して、電子証明書を発行するサービスです。「認証局運用受託サービス」は、お客様ご自身の認証局を創設される際に、その構築・運用をお任せいただくサービスです。電子認証の技術運用ノウハウを持つセコムトラストネット(株)は、すでに日米欧主要金融機関の参画する電子認証標準規格「アイデントラス社仕様」に基づき、邦銀大手4行から電子認証局の構築・運用を受託しています。また、GPKI(政府電子認証基盤)の実績も誇っています。

「有人監視サービス」は、ネットワークの安全性と安定性を確保し、利便性を向上させるために、ネットワーク上の脅威や稼働状況、負荷状況を監視・報告するサービスです。これには、24時間不正アクセスを監視する「セコム不正侵入検知サービス」、ウイルスの感染を監視する「セコムウイルス監視サービス」などがあります。

セコムグループは、お客様のビジネス支援のために、サイバーセキュリティとネットワークサービスの事業を統合した「トラステッドサービスプロバイダー(TSP)」という新事業を確立しようとしています。これからは、お客様の情報資産のセキュリティにおいても、従来の建物・施設のセキュリティと同様に、セコムならではのサービスシステムの創造をめざします。

## 「社会システム産業」の本格展開をめざして

セコムグループの各事業・各サービスの融合化は、始まったばかりです。

「第二の創業期」に立った今、融合化をさらに推進し、「世の中にない」「社会に役立つ」独創的なサービス・商品を生み出し、「社会システム産業」を本格展開することで、より安全で便利で快適な社会を実現したいと考えています。

セコムグループが対象とする市場は、事業所から家庭へ、固定対象から移動対象へ、そしてフィジカルからサイバーへと広がり続けています。これらの市場で、これからもお客様のご支持をいただくためには、経営資源の積極的投入や競争力のあるサービス・商品の提供はもちろんですが、より重要なことは、お客様に「セコムにしてよかった」「セコムだから安心だ」と実感していただけるように、「顧客満足度の向上」に邁進することだと認識しています。そして、より多くのお客様からセコムグループのサービス・商品に対するご評価をいただいはじめて、「第二の創業期」からさらなる発展が遂げられるものと考えています。

「社会システム産業」の本格展開をめざすこれからのセコムグループの活躍に、ご期待ください。